

和蠟燭

木蠟工業所は伝統的な和蠟燭を製造している日本でも数少ない場所のひとつである。日本で唯一、化学抽出ではなく機械プレスで原料を生産している。

1792 年の島原大地震と津波で壊滅的な被害を受けた島原では、領主が土地を失った農家に換金作物としてのろうの栽培を奨励し、十八世紀末になってから作られるようになった。しかし、1990 年から 1995 年の平成大噴火でハゼノキの植林地の大部分が破壊され、すでに消えつつあったこの工芸を脅かした。

もちろん、現在はより効率的な方法でろうを製造しているが、新しい方法では蠟燭を燃やす化学成分を使っている。本多木蠟の店主はより自然な方法に対して情熱的で、1950 年代に作られた、作り手に、顧客に、環境により安全な「玉締め式圧搾機」を使っている。

工房を訪れば、この伝統工芸品の豊かな世界を発見できる。木を砕いて抽出した蠟の実(燭)や、今も使われている昔ながらの機械を見ることができる。毎日キャンドル作り教室を開催しており、装飾性の高いキャンドルの販売も行っている。